

仏法領

ぶつぽうりょう

第67号



(写真・文 大迫光浩)



あゝもうそこまで
春は歩んできている
暖かくなつた
さんぼでもしてみようか
寒さに耐えた木々が
日に日に芽吹く



内垣地区お取越

発行：真宗大谷派
念信寺
〒824-0202
福岡県京都郡みやこ
町犀川上高屋761
☎ 0930-42-0329
Fax 0930-42-0502
ホームページ
nenshinki.org



「お取り越し」について

二月二十五日（土）午前中に旧犀川内垣地区にて執り行われた「お取り越し」にお参りさせていただきました。とは言つても、寺報にのせる記事を書かなければならぬ筆者は初めての経験で、「お取り越し」の何たるかは意義も意味もまったく知つております。

試みに『広辞苑』や『仏教用語辞典』で調べてみても簡単なことしか書いていない。期日を繰り上げて行事をおこなうことをお取り越しという、とある。これでは味も素つ気もない説明にすぎませんね。

浄土真宗では、毎年旧暦十一月二十八日が親鸞聖人のご命日。本願寺をはじめ、真宗各寺院ご門徒さんたちは、すべてを結集して聖人の恩徳に報いるために報恩講を営むものとされていると思います。「お取り越し」とはたんに期日を繰り上げて行事を行うということではなく、報恩講を営むということと同じ重大な意義をもつ言葉だと考えた方がよさそうです。

内垣地区は現在四十三戸の住民が暮らしているとのことです。当日は十二人の方が出席されていたのですが、十三戸が念信寺のご門徒さんだそうです。

お取り越しは地区の公民館で集合して行われました。昔は一軒ずつお参りして最後に当番の門徒さん宅に集まっていたそうです。公民館には仏壇などの設備はなく、臨時に祭壇を設けて、各家庭から持ち寄った位牌をならべて、中央には阿弥陀如来様のご絵像を掛けたといふことにシンプルな祭壇でした。親鸞聖人の遺徳をしのぶにはこれで十分かと思います。なんの不足もないと思います。

親鸞聖人は儀式の莊厳さなどはまったく気になさらない方だったからです。

社会情勢の変化によりこのような行事を続けていくことは困難な世の中になりますが、内垣のご門徒さんが今後も「お取り越し」を続けて行かれることを切望いたします。

南無阿弥陀仏。

（記 阿部正紀）

◆門徒の仏事◆ 「お取り越し」ってなんだろう!

と
こ



お寺の報恩講は本山・東本願寺の報恩講（11月21日～28日）より先に取り越しして行われるので、「お取り越し」と言われたらしいのです。しかし実際は、本山よりも後になっていますが…。現在では門徒のお宅の報恩講を主にお取り越し」と呼び習わしています。

念信寺の場合、伊良原、横瀬、上木井、

下木井、内垣、犬丸、上高屋（2地区）、

下高屋（現在休み）、上本庄、下本庄、松坂、鎧畑、赤村、ほかに行橋など一軒ずつの箇所と、12月から2月にかけてお参りしています。

現在は、葬儀や法事などを仏事と考

えて、仏事は日常でな

い特別の行事となつて自分の生活と離れてしまっているよう

です。

しかし、真宗門徒は真実を抛り所にして生きるという誇りをもつて、朝晩仏さまに手を合わせ、お念佛申す日々をしてきました。その毎日の確かめをするのがお内仏の報恩講（お取り越し）なのです。

お取り越しは生活のうえに信心をいただくのだということを確かめる仏事



伊良原・岩屋河内



伊良原・古賀団地

です。お取り越しをしなくなると、仏教徒として生きてきたのだという歴史まで見失うのではないで

しょうか。

真宗門徒としての自覚を呼び起す大事な行事ですし、目に見えない財産ですから、派手にしなくとも是非とも続けてお子さんたちにも残していただきたいと思

っています。
(住職)



伊良原・釜の河内

別院の報恩講・お取り越し

お取り越しといえば、宇佐四日市別院のお取り越し（12月12日～16日）が有名ですね。四日市の町は別院の門前町として発展した町だから現在でもお取り越しの時期になると町全体がお祭り気分で盛り上がる。

別院境内にはテント小屋ができ、にぎやかな商店街ができる。

現在の豊前市葛城地区の住人が残した明治期の記録によると、別院お取り越しが始まると、近隣の門徒衆は必ず別院に参った。本堂で寝泊まりしてご遺徳を偲んだのだそうです。

鉄道も自動車もない時代の話で、門徒衆は五里二十キロの道を天秤棒を担いで歩いてお参りしていたという。帰りには町で必ずお土産品を買って帰った。そのための担い籠であった。それが毎年のたのみでもあったという。

(阿部正紀・記)



多くのお参り



お斎打合せ



お莊厳盛り



幕張



竹ひこ作り

お寺の報恩講
昨年の光景（11月19日～24日）

子どもたちは、年に一度の「子ども報恩講」を楽しみにしている。講師の先生のお話を聴き、お説教を聞く。

子ども報恩講

11月23日正午



日本における精進料理の起源は、鎌倉時代とも言われています。

献立ご飯、お味噌汁、酢の物、しいたけ、あげ、里芋、人参、春菊の葉、大根、豆。子どもには特に、餅入りのおぜんざいとお菓子。

ついつい、「飯とお味噌汁のおかわりをしてしまう。」

(大迫
光造)



春のお彼岸法要ご案内

まだ寒い日が続いている。皆さまいかがお過ごしですか？お彼岸の御法座を左のように開催致しますので、どうぞお参りください。

●日時 三月二十六～二十八日

日 時	午後一時半～	午後七時半～
二十六日(日)	法 話	法 話
二十七日(月)	法 話	法 話
二十八日(火)	法 話	法 話

●講師 祖父江

佳乃 先生

二十六～二十七日昼席
名古屋市 有隣寺住職

徳風幼稚園園長。生まれた時から、祖父である祖父江省念師の説教を聞いて育つ。愛知淑徳大学卒業。CBCラジオ局アナウンサーを3年間経験後、同志大学仏教専修学科卒業。母方の祖父も、大谷派教学研究所長をなさり、布教の名手としても高名な仲野良俊師。

※昨年に引きづき、お願ひいたしました。日程を当初、

25日からとご案内していました。住職の勘違いでした。
くれぐれもお間違のないようにしてください。

祖父江先生のコメント

皺があるて、シミがあつて、さざくれもある手。念信寺の同行様は、良い事も悪い事も楽しい事も辛い事も、全てを

その手でつかんでこられました。そして、その手を合わせ、南無阿弥陀仏をいたいで、あゆんでこられた。その人生の先達を前に、今年もお育ていただき事を心より喜び感謝しております。精一杯お取り次ぎさせていただきました。うれしくたのしくおこなわれた。

よろしくお願ひいたします。



法座予定

二〇一七年

●皆作法要

六月二十四(土)～
二十六日(月)

講師 松月 博宣 師
(糸島市)

●秋彼岸法要

九月二十三(土)～
二十五日(月)

講師 藤谷 知道 師
(宇佐市)

●ご正忌・報恩講

十一月二十一(火)～
二十四日(金)

長倉 伯博 師
(鹿児島市)

行事予定

●上高屋仏教婦人会追弔会

3月21日(火)午前10時 於念信寺

●京都組同朋のつどい

4月10日(月)午後1時 於善徳寺

●犀川小組同朋会

4月20日(木)午後1時半 於念信寺

●本願寺仏教講座

第2回4月3日(月) 伊藤元師

第3回5月18日(木) 黒萩昌師

行橋商工会議所 3階 午後1時半～3時半
聴講無料、どなたでも聴講できます

お斎委員会の活動



坊守 村上寿子

ご正忌報恩講は厳かにつつがなく終了しました。今回のお斎（お磨き・お莊嚴・お花の加勢除く）については、18日の準備から後片付け迄7日間、延べ96名（お斎委員含む）と大変多くの方が関わって下さいました。個々の事情で、かなり無理をしてご協力いただいた

方もあったのではないかと思うと感謝の気持ちで一杯です。お斎委員会は、事前打ち合わせと終了後（評価・反省）の各1回実施しました。



賢明寺さまのおとき

お斎の内容・流れについては昨年よりもさらにきめ細かく実施できており、小さな面での修正はありますが、ほぼ軌道に乗ったと思われます。今後は新たな加勢人の協力が望まれます。そのためにも、初めての人でも速やかに溶け込めスムーズに動けるような工夫が必要になります。

次ステップは参拝者への気配り・接遇を向上させる事だと考えています。お斎の内容・流れについては昨年よりもさらにきめ細かく実施できており、小さな面での修正はありますが、ほぼ軌道に乗ったと思われます。今後は新たな加勢人の協力が望まれます。そのためにも、初めての人でも速やかに溶け込めスムーズに動けるような工夫が必要になります。



お世話を

お斎の美

味

しさ

は勿

論

で、

お

斎

を

お

世

を

話

して下さ

る

御門徒の

の

女

性

陣

も

実

に

自

然

体

で

丁寧

で、

板

に

つ

い

た

日

常

性

を

感

じ

ま

し

た

時

の

良

い

ん

だ

と

い

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う